



先ほど陰性は右にいけばいくほど強くなると言いましたが、電気陰性度もそうなっているのがわかると思います。

なお、希ガスは最外殻電子が全て埋まっており安定した状態です。そのため、ほとん化合物をつくらないので電気陰性度の値は与えられていません。また水素Hの電気陰性度 2.1 と大きい値をとり、表の左上端にあることに疑問を持つと思いますが、太枠で囲んだ部分は非金属元素と呼ばれており、水素Hも右太枠の仲間に入ります。よって電気陰性度の大きい値をとるのです。

電気陰性度を比較すると結合の状態(共有結合 or イオン結合)を判定することができます。

表 2. 電気陰性度の差と各々の結合性の確立

電気陰性度の差	イオン結合性(%)	共有結合性(%)
0	0	100
0.5	6	94
1.0	22	78
1.5	43	57
2.0	63	37
2.5	79	21
3.0	89	11
3.1	91	9
3.2	92	8

- 電気陰性度が同じ = 100% 共有結合性である
- 電気陰性度の差 > 1.7 → イオン結合性とみなしてよい

例) 塩化ナトリウム NaCl の場合、表 1 より電気陰性度の差は

電気陰性度 : Na(0.9), Cl(3.0)

$$3.0 - 0.9 = 2.1$$

表 2 からイオン結合性であるといえる。